

ブナ坂国有林における立山スギ巨木に関する取り組み

富山森林管理署 森林ふれあい係長 ○中屋健次
" 立山森林官 藤村 桂

要 旨

富山県東部のブナ坂国有林は、「県木立山スギ」の巨木が多く生育していますが、その実態については明らかにされていませんでした。このため、特に集团的に生育している通称美女平から上ノ小平の約300 ha について実態調査するとともに、その結果について県内外に公表及びPR等の取り組みを行ったものです。

はじめに

平成14年度、全国国有林「森の巨人たち100選」に選定された立山スギ巨木 No 52 の保護保全について、地元愛好者や関係者を交えて意見交換を行いました。その中で、ブナ坂国有林内には他にも立山スギの巨木が多く見られることから、「その実態を調査してはどうか?」「愛称を募集したらどうか?」等意見があり、それらを踏まえ取り組んだものです。

1 取り組み内容

- (1) ブナ坂国有林内における巨木の実態調査
- (2) 調査結果のとりまとめ・PR
- (3) 巨木の保護活動と、代表的巨木の愛称を募集

2 巨木の実態調査

(1) 調査地等

ブナ坂国有林は、富山県東部に位置し、富山県立山町から長野県大町市へと続く、立山黒部アルペンルートがあり、年間約100万人の観光客や登山者が訪れます。そのブナ坂国有林には立山スギが多く自生しており、その中でも、図-1の○で示している美女平から上ノ小平の間は幹周りが3mを越える巨木も多く、代表的な生育地です。

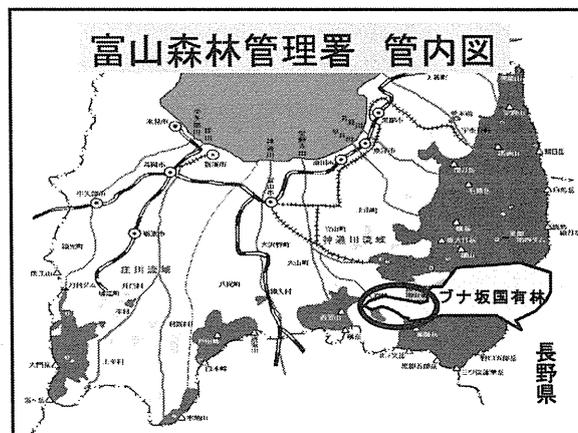


図-1

巨木調査区域については、平成15年度に美女平から下ノ小平まで、平成16年度には下ノ小平から上ノ小平までを調査しました。調査地の標高は1,000mから1,600mまでの台地で、面積は約300 ha あります。

(2) 調査対象木・調査方法

巨木調査は、山際地際から1.3mの位置で、幹周りは、「環境省の巨木設定3m」を基準としようとしたが、事前踏査したところ膨大な本数となることが予想され調査困難と考え、その倍の

「6 m以上」を巨木対象としました。また、株立ち等であったものでも、現状で完全に合体融合していると思われる木については調査対象としております。その他参考として、6 m未満でも形質が良いもの、特徴のあるものなど、対象外のものも調査しています。

調査項目については図-2のとおりで、出来るだけ詳しく把握しています。

調査項目	幹周り(山側地際から1.3m高) 樹高 位置情報 (GPS 緯度・経度) 樹型・被害の状況 生育環境等
------	---

図-2

(3) 調査の実施

調査の実施については、元職員・立山地区のナチュラルリスト及び市民ボランティアなど7名の方々にご協力頂きました。また、調査分析にあたっては、富山医科薬科大学の加藤輝隆先生や、富山県林業試験場の方々の指導を頂いております。

(4) 調査結果

巨木調査の結果について、幹周り区分別本数は図-3のとおりで、6 m以上の巨木は合計で147本確認されました。今回約300 ha という狭い調査面積ではありますが、確認された巨木147本の数値は決して少ない数字でなく、ブナ坂国有林が国内でも数少ない、天然性スギ巨木の集団的生育地であることが確認されたと考えます。

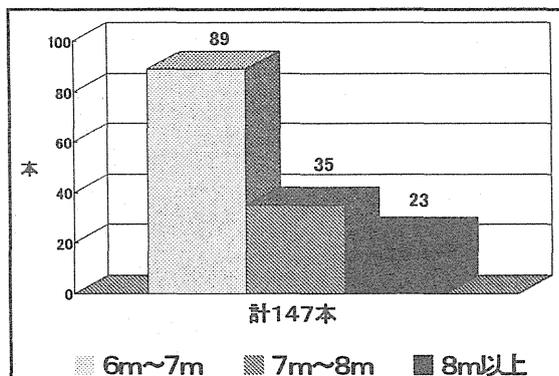


図-3



図-4 (☆: 森の巨人)

また、図-4は巨木の幹周り別位置図で、GPSで測定したデータを基に図上に位置を表したものです。この一帯で巨木が集中して生育しているのが明らかとなり、このGPSデータを基に巨木の位置を確実に確認することが出来、今後50年、100年後の後生に渡って巨木を観察するための貴重な資料であると考えます。

(5) 調査木

調査木については様々な大きさ・形等がありましたが、別紙写真-1については、単木として最も大きく幹周り990cm樹高25mですが、側面に大きな空洞があり幹も9m付近で折れています。

写真-2については標高1,565mの遊歩道沿いにあり、幹周り330cm樹高11mで、アルペンルート沿いで最も高い位置にある巨木です。

立山スギの代表的な樹冠を表したものについては、写真-3のように分岐した枝が立ち上がり幹となり、箒状となった木が多く見られます。また、写真-4についても、一見通直に伸び枝分かれしていないように見えますが同様に途中で分岐しています。

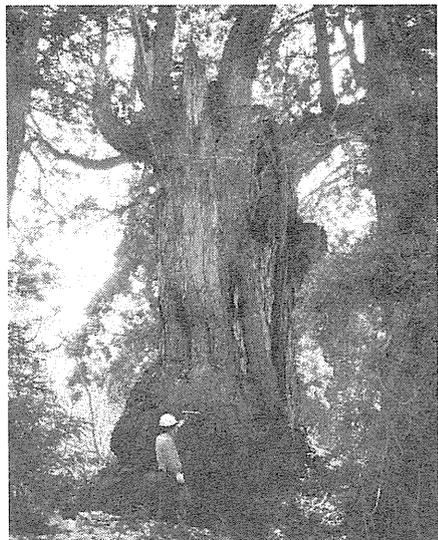


写真-1

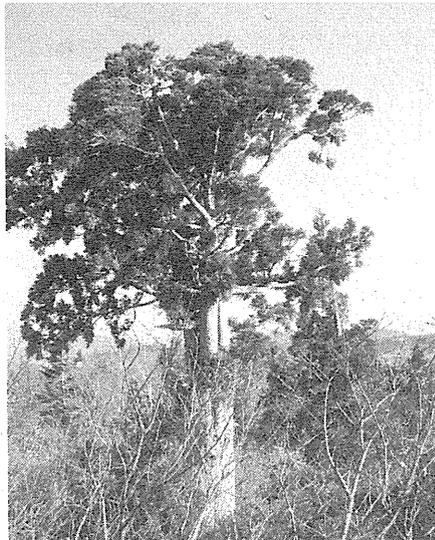


写真-2

(写真-1)

標高1,205m
幹周り990cm
樹高25m

(写真-2)

標高1,565m
幹周り330cm
樹高11m

(写真-3)

標高1,065m
幹周り889cm
樹高27m

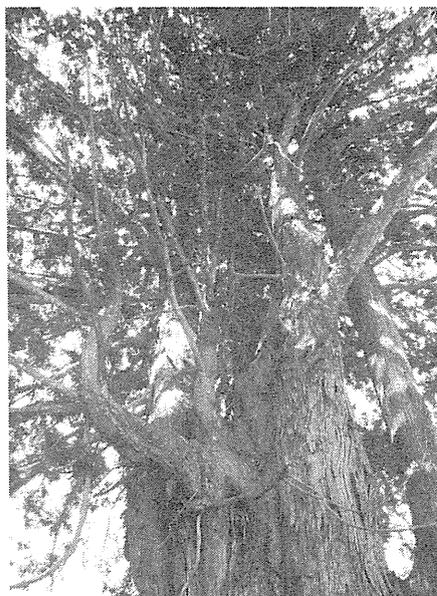


写真-3

(写真-4)

標高1,027m
幹周り600cm
樹高22m

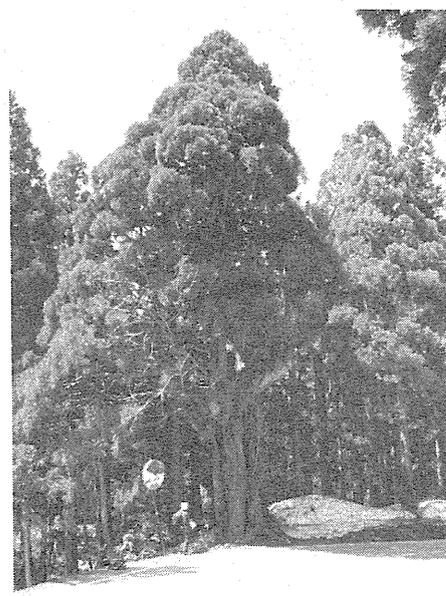


写真-4

(6) 調査木の被害等

調査木の被害などについては別紙図-5のとおりで、幹周り6m以上の巨木147本のうち外観上に見られる被害などの本数の状況を表しています。重複して調査をしていますが、そのまま集計しています。被害等の状況は、正常と区分された木は、147本中9本と少なく、幹腐れは112本で最も多くなっています。幹穴については、全体の3分の1に現れており、幹の一部を人為的に剥ぎ取られた被害はほぼ5割に見受けられ、幹腐れの原因にもなっています。この他に幹折れ、裂け折れ、コ

ブなどの被害が確認されています。

被害の中で、多く見られたもの等を紹介します。

写真-5は、最も多く見受けられた幹腐れの写真です。幹全体に渡って腐っており、長年の風雪や腐れに耐えた軌跡を表しています。また、写真-6については、一般的な剥ぎ取りの例で、幹の上下

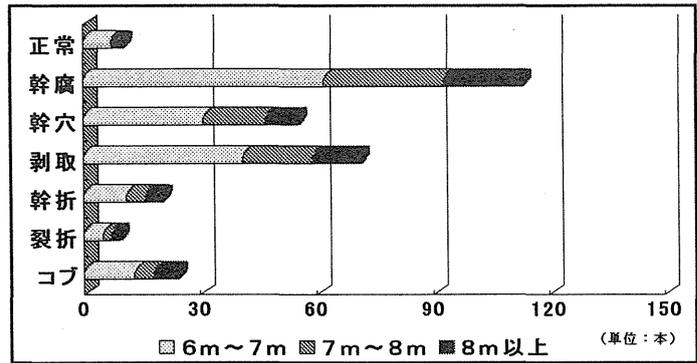


図-5

・左右にヨキ等で切り込みを入れた跡が

はっきりと分かります。この剥ぎ取りは、立山と美女平周辺の歴史を物語り、地域の人々との関わりを表す貴重な資料であると思います。



写真-5

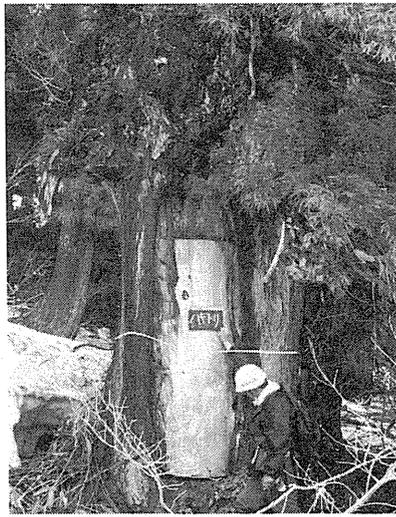


写真-6

剥ぎ取りにつきましては、今からおよそ250年前の立山黒部一帯の森林は加賀藩の御縮山として伐採などが厳しく制限されており、藩の払い下げを受けなければ伐採が出来ませんでした。盗伐し持ち出すのは難しく、又厳しく罰せられるため、必要な部分のみ「剥ぎ取り」をし、この跡が

現在も残っているものと考えられます。今回の調査木で年輪解析をした結果、120年前から250年前の間に剥ぎ取り行為が行われたことが確認されています。

3 調査結果の公表とPR

- (1) 平成15年度調査内容の地元新聞掲載……<写真-7>
- (2) 「タテヤマスギ巨木調査報告書」(平成15年度調査内容)完成及び報告会……<写真-8>
- (3) 説明実施(富山県ナチュラリスト協会・富山県林政協議会)



写真-7

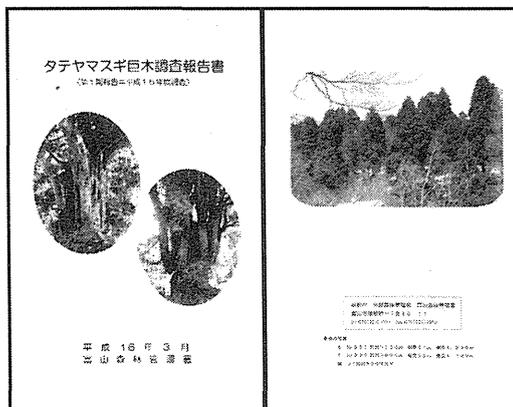


写真-8



写真-9

調査結果公表及びPR実施の外、平成15年度に、ブナ坂国有林内における立山スギについてのチラシ（別紙写真－9）や、美女平周辺の案内書を作成しました。

これらのパンフレットについては、多くの観光客が集い訪れる美女平駅や、室堂ターミナルなどで一般の方々に配布し、PRに努めたものです。

4 巨木の保護活動

(1) 「森の巨人たち100選」NO.52

巨木の保護活動として、「森の巨人たち100選」に選ばれた立山スギに、保護柵（写真－11）と説明標識（写真－12）を市民ボランティアの協力を得て実施しました。説明標識は、巨木の北側にある遊歩道沿いに設置し、登山者などが説明看板を見た後実際に巨木と対面できるようにしたものです。



写真－11 「森の巨人たち100選」No.52



写真－12

(2) 愛称募集

ブナ坂国有林の美女平などに自生する貴重な立山スギの巨木が多くの人に親しまれ、いつまでも大切に保護されることを目的として愛称を募集しました。

この企画は、地元立山町及び保護管理協議会と協同で行い、美女平駅の園地内にある巨木や、アルペンルート沿いの車道や歩道から見るこ



図－6

できる代表的な巨木10本（図－6）を対象とし、昨年8月より11月末までの4ヶ月間一般の方々に募集をしました。今後選考委員会を設置し、選定することとしています。

5 地域等の反響

この取り組み以降の富山県内の立山スギに関する動きを見てみると、

- (1) 昨年1月、早月国有林で幹周り12mの巨木が発見、新聞報道（上市町）
- (2) 片貝川上流域の「洞スギ群」の保護保全協議会設置（魚津市）

- (3) 調査地内遊歩道「立山美女平森の巨人たちのみち」と命名選定（全国知事会による「歩きたくなる道500選」）
- (4) 新たな探勝路開設検討
- (5) シンポジウムや巨木観察会開催

など様々な動きが見られています。

6 取り組みに対する結果

(1) 巨木実態調査結果

立山スギ巨木の実態調査では、美女平から上部の約300 haの中に、6 m以上の巨木が147本と数量的に明らかになりました。これは、他の生育地の実測数値に比べてみても、国内でも数少ない天然性スギ巨木の集団的生育地であることが再確認されたと考えます。

巨木は、外観上見られる剥ぎ取りの被害や、幹腐れ等が9割以上に現れており、衰弱がかなり進行していると思われます。このため、多くの方が訪れるような場所にある巨木については特に保護標識や巨木の保護ロープなど設置する必要があると考え、検討していきたいと思えます。

(2) 県内の動き

このように今回の取り組みを契機として、県内には巨樹巨木林に関する新たな動きも生まれていることから、巨木への関心が一層高まっています。また、今回の取り組みについては実態調査などに積極的なボランティアの参加があり、一般市民等の立山スギ巨木に対する関心の高さが伺えます。

おわりに

この取り組みで、ブナ坂国有林の約300 haの溶岩台地に生育する立山スギ巨木の実態がほぼ明らかになり、その結果についてはあらゆる機会を捉えてPRしています。この巨樹巨木林をどのように取り扱い、利用等していくかについては今後の課題といえます。そうした意味からいえば、取り組みは始めたばかりであり、さらに実態調査結果などを広くアピールし、地域等のニーズに応えた取り組みを進める必要があると考えております。

今後とも皆様のご指導ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。